

第1回（仮称）彦根市多文化共生推進プラン策定委員会 会議録（概要）

1 開催概要

- (1) 日時 平成27年7月15日（水）14:00～16:00
- (2) 場所 彦根市役所 第2委員会室
- (3) 出席 【委員】 臼杵委員、桂田委員、河瀬委員、鈴木委員、多菊委員、
デイヴィッド委員、長野委員、平田委員、森委員
【オブザーバー】 山岸滋賀県国際室主幹
【事務局】 大倉市民環境部長、小林市民環境部次長、
浅田人権政策課課長補佐、人権政策課職員

2 議事

- (1) （仮称）彦根市多文化共生推進プラン策定委員会の公開要領について
- (2) （仮称）彦根市多文化共生推進プラン策定委員会の運営およびスケジュールについて
- (3) 彦根市の現況等について

3 内容（概要）

- ・ （仮称）彦根市多文化共生推進プラン策定委員会委員の委嘱
- ・ 市長あいさつ（市民環境部長 代読）
- ・ （仮称）彦根市多文化共生推進プラン策定委員会委員の紹介
- ・ 委員長および副委員長の選出について
委員長 森委員（聖泉大学講師）
副委員長 河瀬委員（彦根市国際協会）
- ・ （仮称）彦根市多文化共生推進プラン策定委員会設置要綱について
事務局より説明
- ・ 議題(1) 公開要領について
事務局より説明
- ・ 議題(2) 運営およびスケジュールについて
事務局より説明
- ・ 議題(3) 彦根市の現況等について
事務局より説明

【委員長】

すでに議論された内容と現状と課題を共有しながら、今後プランを考えていく材料として資料となる。事務局には、この進捗状況が今どうなっているのかをまとめていただきました

い。継続性を大切にして、これまでの議論を踏まえた上で、どうしていくのか、どうすればいいのかをまとめていきたい。皆さんが実際に感じている現状の課題や思いを話し合っていたきたい。

【副委員長】

示す資料で、多文化共生推進課（仮称）の設置をとあるが、多文化共生の実現には、名前だけでなく、人数、人材が必要。その点を市長にお願いした。提言から数年経っても実現していないことは残念なこと。提言のあとアナーバー市の中学生派遣や受入や湘潭市との事業が、一時、企画課に移ったことがあった。外国からのお客さんの対応があるから、企画課だと説明された。多文化共生の事業ではないのだろうか。その後、また事業が人権政策課に戻った。行政は多文化共生の推進をどう考えているのか。外国とのおつきあいは、日本に在住している人たちとのおつきあいとどう違うのか。行政の考え方は問題だ。

【委員長】

これまでの取組の中で実現できていないこと、今後の 5 年間で取り組んでいくこと、今の進捗状況や進んでいない原因など考えていきたい。教育での課題などどうか。

【委員】

彦根市で母語教室が始まっている。外国人の子どもたちは市民の構成員としてはいろいろとハンデがある。だからといってその人たちを指導する、与える、導くという考えではなく、その人たちが元気になるようなことを学校でも地域でも考えていくことが一番大事だと思う。そのことで日本人も良かったと感じられればいいと思う。その点でも母語教室が始まっているのはすごいことだ。

【委員】

日本語を母語としない子どもたちだけでなく、国籍に関係なく、外国にルーツを持つ日本国籍の子どもたちも参加できるといい。

【委員長】

そうした委員の願いや思いを言葉として、中身として、プランに反映していければいいと思う。

【副委員長】

提言書に教育委員会に多文化教育の担当をとということがある。今度のプランも教育委員会との関わりがほしい。

【委員長】

どうしたら実現していけるかを、前向きにみんなで考えていきたい。子どもの教育にかかわってくると思うがどうか。

【委員】

読み書き、漢字が、なかなか理解できないことが、他の教科の理解にいろいろと問題になってきている。

【委員長】

子どもたちへどんな支援体制がとられているか。

【委員】

日本語指導をしている。

【委員】

2年ぐらい前に国が初めて指針を出した。特別に位置付けて指導するようになっている。今はそれぞれの子どもたちの実情に応じて、時間を10時間から280時間できるということになっているが、県ではやれていない。子どもたちにとっては、第2言語である日本語の問題は、それが全ての始まりだと思う。学習の主体である子どもという視点がほしい。

【委員長】

制度や仕組みが子どもや、その主体者を中心に考えていくべきだと思うということか。

【委員】

そうだ。

【委員長】

現状の取り組みをまとめていただくときに、事務局は資料として明確な数字や内容をあげてもらいたい。次回以降、どういう支援や取組が必要か、評価や課題を考え、どのようなことをしていけばいいか、あと2回の議論で、最終的なプランに繋げていくということ。最後の回では、修正等があると思うので、実質2回で仕上げていくことになる。不安や難しさがあるが、ご協力をお願いしたい。

【委員】

私は30年近く民間企業の総務で外国人派遣労働者の取次をやってきた。資料の中で、国籍別の内訳で、民間企業で就労している人がどのくらいいるのか知りたい。派遣会社から

の人は、収入を求めているのは分かるが、技能実習の中にもそういうことがあるのではないか。

【副委員長】

例えば中国人 516 人の中で、日本人配偶者や留学生がどのくらいの割合でいるのか。また上位 5 か国しかないが、実際は何か国の方が彦根市におられるのか。もう少し詳しい資料を提供いただきたい。

【委員】

高齢者も出てくる。年齢別、年代別のデータも必要。

【委員】

資料で企業の役割があるが、外国籍の人たちの多くは企業に関わっている。企業や企業主の理解が必要だ。

【委員長】

プランの周知をどうしていくか。特に企業とどう共有していくかも課題となっていく。2 回目以降の議論に続けていきたい。

(仮称)彦根市多文化共生推進プラン策定委員会委員長

木 雄一郎
